

言葉が通じなくても伝わる心

大切なのは理解しようとする気持ち

言葉だけでなく、心でも通じ合えることを知ったホストファミリー。交流がもたらしたものは心の成長でした。



笑顔で別れようと気持ちを「スマイル」と頬に指をあて表現。マティス君から自然とこぼれる笑顔は気持ちが伝わった証拠



ホストファミリーの「またね」の呼び掛けに振り返るヘルビッチ君。目には涙が溢れていた

遠い国から来た「家族」との別れ

上山での交流はあっという間に過ぎていきました。かみのやま温泉駅に集合したホストファミリーと訪問団。ホームでは目頭を熱くさせながら、遠い国から来た学生たちの温もりを忘れないよう固い握手を交わすホストファミリーの姿がありました。

言葉の壁を越えた心と心の交流

取材を通して、いろいろな年代を越えて、心と心が通じ合うシーンがありました。生活を共にし、上手な英語が話せなくても、理解しようという気持ちがあれば一緒に笑うことができたホ

広がる交流の輪

ホストファミリー同士で協力し、受入れに取り組んだ家族もあり、ド市学生訪問団をきっかけにした、交流の輪は市民同士の交流にも広がりを見せます。

国際化が進む中で、市民のみなさんが海外で活躍する機会が増えていきます。普段の生活環境とは違い、言葉が通じない外国人が加わることで、生活に刺激が生まれ、かけがえのない時間を過ごすことができ、長年交流したような心の繋がりを築くことができます。

今年で17年目を迎えるド市と山市との交流は、名取市への義援金の寄付や、ド市との友好都市盟約15周年を記念し実施された「斎藤茂吉の道」の開設などに発展しています。

ホームステイの受け入れは、心を育て、国際交流の一番の近道です。交流の輪は国境を越え、心を通して、たくさんの方の心を繋いでいきます。まずは、身近なところから、異文化・心の交流を始めませんか。

※来年は、上山の学生訪独団出発する予定です。



ホストファミリーとド市学生訪問団のみなさん。肩を組んで写真を撮ったり、新幹線が出発するまでの間、手を繋いでいた子どもたち。「家族が減るのはさみしい」と別れ際に話していた。またいつか会えると信じ、出来れば「冬の上山も紹介したい」と次に会えることを楽しみにしていた



▲上山明新館高校の生徒会メンバーが見送りに駆けつけた



▲「泣かない」と決めたが寂しさがこみ上げる



▲新幹線に乗り込んだ学生たちに手を振る家族。姿が見えなくなるまで手を振り続けた



▲ケビン君と共に過ごした小さな家族。大きくなったら、また会おう